

都

会でもない、田舎でもないトカイナカ三芳町。最寄り駅まで池袋駅から最短25分にも関わらず例年5月下旬から6月頃には「こぶしの里」にホタルが舞うなど、自然豊かな環境に恵まれています。

一方、都会では開発が進み、緑が失われ、夏の風物詩とも言える蝉の鳴き声も減少し、虫取り網を持って外で遊ぶ子どもの姿もあまり見られなくなってきています。

大人も夢中になれる場所

しかし、三芳町の子もたちは小さな頃から自然に触れることができます。先述のこぶしの里の脇に流れる「こぶしの川」でザリガニ釣りをしたり、緑地公園では昆虫採集する光景が見られます。パパと子どもが一緒に夢中で虫を追いかける姿は、少年のようです。親子で自然とふれあい、遊ぶ事は家族のコミュニケーションを深め、子どもたちにとってもかけがえない時間となります。

身近に隠れた宝物

当たり前のように身近にある自然と緑。しかし、三芳町の緑地は町の10%程度まで減り、町や緑への

の関心が薄れてきていることも課題となっているなか、大きな動きがありました。

ふるさと埼玉の緑を次世代に引き継ぐため寄附を募り、埼玉県の優れた自然や貴重な歴史的環境を財産として保全しようとする運動「緑のトラスト運動」。2015年7月16日、藤久保の平地林が、埼玉県で14番目の緑のトラスト保全地となり、平成30年度のトラスト地オープンに向けて準備が進んでいます。

未来への宝物

三芳町に残る自然や緑は未来への宝物——。今月の特集では町の平地林のこと、藤久保の平地林（緑地公園）をご紹介します。今、私たちにできることを考えてみませんか。■

緑のトラスト運動とは

皆さんから広く寄附を募り、それを資金として山林などの土地を取得し、埼玉の優れた自然や貴重な歴史的環境を、県民共有の財産として末永く保全していこうという運動です。町では県と共同で今年度トラスト14号地の整備工事を実施します。

Keep the forest

美しい緑に囲まれた町

未来への宝物。

東京から一番近い町、トカイナカ三芳町。当たり前のように緑が残り、触れ合うことができる環境がある三芳町。未来へと守り続けたい自然と緑について特集します。

【写真】三芳町自然の森レクリエーション公園から見た緑地公園。